

新型インフルエンザ流行期の小児インフルエンザ患者に対するタミフル[®]，リレンザ[®]の有効性の検討

西村龍夫，絹巻 宏，熊谷直樹，卯西 元，幸道直樹，西原 信，田草雄一，松下 享，前田雅子

【目的】新型インフルエンザ流行期の小児インフルエンザ患者に対し、タミフル[®]，リレンザ[®]の投与が臨床経過に及ぼす影響と，合併症，予後を多施設共同で調査した。

【方法】各参加施設で，2009 年 10～12 月に診断した 12 歳以下の連続した 20 名の新型インフルエンザ患者（迅速キット陽性例）を対象症例とした。抗インフルエンザ薬は各施設の判断によって投与した。対象となった症例の初診時の所見を記録し，1 週間後の転帰を受診もしくは電話にて確認した。

【結果】抗インフルエンザ薬の中途中止例や記載漏れなど，無効なデータを除いた 146 例の症例を対象として多変量解析を行った。有熱期間は年齢に関係なく，男児より女児の方が長かった。喘息の有無では差はなかった。来院までの最高体温が高いと有熱期間も長い，早期に受診することは有熱期間に影響しなかった。タミフル[®]，リレンザ[®]の投与は共に有熱期間を 0.6 日程度短縮したが，受診後の合併症には影響しなかった。